

# 「つや姫」栽培管理情報 第3号



～1.9mm選別ふるい目に対応した米づくりの実践～

平成30年7月25日



‘半端ない’この暑さ

## ‘猛暑’をのりきる秘訣を今一度確認

7月5日から的大雨では、江津市のマイスターほ場で冠水がありました。早くよくなりますようにお見舞い申し上げます。

さて、各地のマイスターほ場では、7月第1から2半旬を中心に幼穂形成期に入り、最も早いほ場では7月21日に出穂期となりました（裏面参照）。7月9日の梅雨明け以降は、晴れて気温のかなり高い日が続いており、出穂がやや早まっています。生育は、幼穂形成期において、葉色がやや濃く（その後やや低下傾向）、茎数がやや少ない状況です。この茎数は、目標とする最高茎数におさまり過繁茂となっておりません。また、目立った病虫害の発生はなく、このような状況から今後の暑さに備えた準備はできたと考えています。

気象庁からは、気温の高い状態が8月上旬にかけて続くと発表されており、登熟期の前半は、高温少雨で特に厳しい条件になると見込まれます。そのため、当面の管理を今一度確認して、できることから実践し、この‘猛暑’をのりきりましょう。

### 1 当面（出穂期前後～成熟期）の栽培管理ポイント

#### □適切な水管理

- ・基本的には、間断かん水を行うことで、根を健全化し、老化を防止。用水の不足する地域では飽水・保水管理（湛水せずに、足跡に水が残る程度の水を保つ）を行う
- ・かん水は、水温の低い時間帯に行うと良い
- ・出穂期前後は、干ばつ害やフェーン現象などの気象災害を受けることが多いので、水不足とならないように特に注意
- ・登熟期間における早期落水は、減収や白未熟粒の発生を助長するので、穂揃い期以降は、出穂後25日頃まで間断かん水、または飽水・保水管理を継続
- ・落水以降でも、過度に乾く時（田面が白乾）は、走り水かん水を行う

#### □カメムシ防除

- ・本県内の斑点米カメムシ類の発生量は「やや多く」、8月中旬までの気象は主要種（アカスジカスミカメ）の発生に助長的
- ・周辺雑草の草刈りは、出穂直前になってからは行わず、出穂10日前頃までに終了
- ・穂揃い期頃の防除を徹底
- ・カメムシ類は広範囲に移動するので、地域で一斉に防除

## 2 「つや姫」普及実証ほの状況

出穂の早かった2ほ場の写真です。葉色は、出穂期の適正な SPAD 値 (35~37.5) と比べ薄くなく、登熟期間の高温条件に適していると思われます。出穂期以降における葉色の急激な低下は、背白粒や基部未熟粒の発生を助長しますので、注意して観察しましょう。



〔写真1：7/20撮影〕

4/26植(-2)：安来市飯生町

出穂期：7/21(+1)、葉色 SPAD 値：35.4



〔写真2：7/24撮影〕

5/4植(+1)：益田市美濃地町

出穂期：7/23(+3)、葉色 SPAD 値：40.2

※( )内は前年対比

☆適期収穫など収穫作業のポイントについては、8月中旬にお伝えします。

収穫に向けて、機械の点検、掃除などの準備を早めをお願いします。

また、農作業にあたっては、こまめな水分補給や日中気温の高い時間帯を避けて行うなど健康管理に十分注意してください。

### トピックス

島根県内の「つや姫」作付面積は、推定1,274haに拡大しました。

全国の作付面積は15,409haで、昨年からは300ha増加しています。この増加分は、宮城県と島根県が多くを占めている模様です(山形県県産米ブランド推進課より聞き取り)。

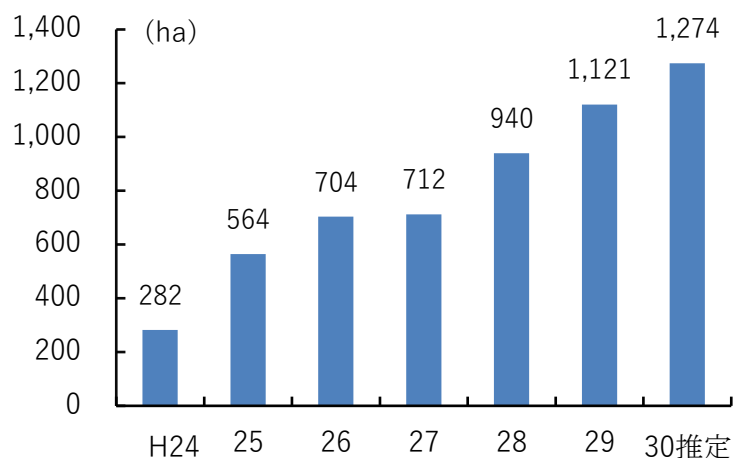


図 島根県内の「つや姫」作付面積の推移